



あした 未来へつなぐ

JR北海道グループは、お客様の安全を最優先に、安心してご利用いただけるサービスを提供し、お客様満足の向上をめざします。

北海道胆振東部地震による鉄道被害 運転再開に向け、復旧作業に邁進

地震発生から 運転再開まで

九月六日未明、北海道胆振東部地震が発生し、震源に近い地域では鉄道設備に甚大な被害がもたらされました。また、北海道全域に及ぶ停電の影響で、鉄道の全路線で列車の運転を見合わせる事になり、多くのお客様



レール研磨作業の様子
(右：レール研磨部)。

さまに多大なご迷惑をおかけすることになりました。

JR北海道では、鉄道設備の被害状況をいち早く把握しようとして、地震発生の日から点検を開始。その後、早期の運転再開に向けて、グループ会社を含め、社員一丸となつて復旧作業に取り組みました。これにより、地震の翌日には札幌〜新千歳空港間を結ぶ快速エ

アポートの運転が再開し、地震発生から二十日後の九月二十六日には、日高線を除く全路線の運転を再開しております。



(上)日高線 厚真川橋りょう。
(左)室蘭線 安平駅構内。

なお、日高線(苫小牧〜鶴川)については、厚真川橋りょうの橋桁にずれが確認されたため、地震発生当日より運転を見合わせており、現在、十二月上旬の運転再開を目指し、復旧作業を進めております。

北海道全域に及ぶ 復旧作業

今回の地震で、多くの路線が運転再開までに時間を要したのは、鉄道ならではの理由があります。

地震に伴い北海道全域で長時間に及ぶ停電が発生したため、各地の踏切でしゃ断する事象が発生してしまいました。そのままでは交通を阻害してしまうことから、グループ会社を含めた電気関係の社員が順次各地の踏切へ赴き、しゃ断かん

を外すなどの処置を行いました。電気が復旧し、列車の運転を再開するにあたっては、これらを元に戻して設備の健全性を確認する必要があります。再び各地の踏切で1箇所ずつ復旧作業にあたりました。また、今回のように列車が長時間走行しない

と、たとえ数日であってもレールに錆が発生し、状況に応じて運転再開の前に運転の安全を確保するためにレールの研磨作業が必要になります。レールの研磨作業と、踏切などの設備点検が完了した後は、試運転列車を区間ごとに走行させ、総合的に安全を確認した上で、運転再開となります。

北海道全域の停電という想定外の事態によつて、広大なエリアを管理するJR北海道では復旧作業等に多くの時間を要しました。この経験を糧に、今後も列車の安全・安定輸送に力を注いでいきます。

①